

# 地平線

全日本港湾労働組合  
関西地方建設支部機関誌

2024年2月1日 387号

全日本港湾労働組合関西地方建設支部

〒552-0021

大阪府大阪市港区築港1-12-27

電話 06-6572-2105 / FAX 06-6574-5648

e mail kensetsu @ crux. ocn. ne. jp

物価高、インフレで「実質賃金」は減少し続けています

人間らしく生き抜くために24春闘を闘い成果を実現しよう

**新年が明け**、石川県・能登半島地震が発災し活断層とともにある地方の生活の大変さを感じます。

過疎地で交通の便が悪く、後継者問題もあり産業の存続が困難な条件にあります。

震災での死者は238人（1/31現在）で、死者の7割以上は65歳以上の高齢者です。「地震列島」「地震大国」日本における国家としての責任ある地方政策が必要で、要求されています。

**被災地はじめ**人々の切実な要求に答えるべき政治は、昨年末から裏金問題で検察の追及を受け、自民党は「派閥の解消」として対応し、自民党内の再編成が進んでいます。岸田政権は「解散・総選挙」を経ずして、党内の力関係を変え再編を進めています。

社会はインフレ物価高で「実質賃金」は減少し、10数年続いた「アベノミクス」の弊害が多発し転換の流れの中にあります。日本銀行は24春闘の賃上げ交渉の内容を見ながら、マイナス金利、ゼロ金利の転換を追及しています。2022年7/8の安倍の死以降、安倍的なものは消えつつあります。政治では裏金の安倍派の解散・消滅、経済ではマイナス金利、ゼロ金利のアベノミクスからの脱出・転換に向かって社会は変化をしています。

**そのような世間の動き**の中で、24春闘は始まっています。建設支部では1/9春闘討論集会をやりました。その内

容を持って1/18関西地本春闘討論集会が開かれました。1/30～31には豊橋で全国的に全港湾中央委員会が開かれ30000円の賃上げ要求が決まりました。建設支部では、非正規労働者が抱える問題、年収の壁を乗り越える必要などを中央委員会で提起しました。

そもそも、全港湾労働組合は、1965年（昭和40年）港湾労働法成立・施行により6大港（大阪・神戸・横浜・東京・関門）の日雇い港湾労働者を組織してきたことが全港湾の大きなエネルギーでありました。

**建設支部は**そのエネルギーを引継ぎ、陸の建設土木・日雇い建設労働者を組織化してきた経過もあります。非正規労働者の要求と課題をたたかうことは建設支部では当然の課題です。

建設支部では、24春闘に向けての議論をふまえ、建設支部・各分会の実情、現実の中から「職場改善要求」を作成し賃上げとともにたたかっています。

2/26（月）には各経営に要求書を提出しますので、各分会は担当執行委員と打ち合わせして、支部・分会一体となって要求実現のため粘り強くたたかきましょう。

# 年収の壁を乗り越え パートタイマーの低賃金を打ち破ろう

政府は「年収の壁・支援強化パッケージ」を打ち出しています。壁を意識した調整を克服し、就労を拡大させようとするものですが、影響はパートタイマーの働き方に変動をもたらすものです。実際に働き方は変わるのでしょうか。

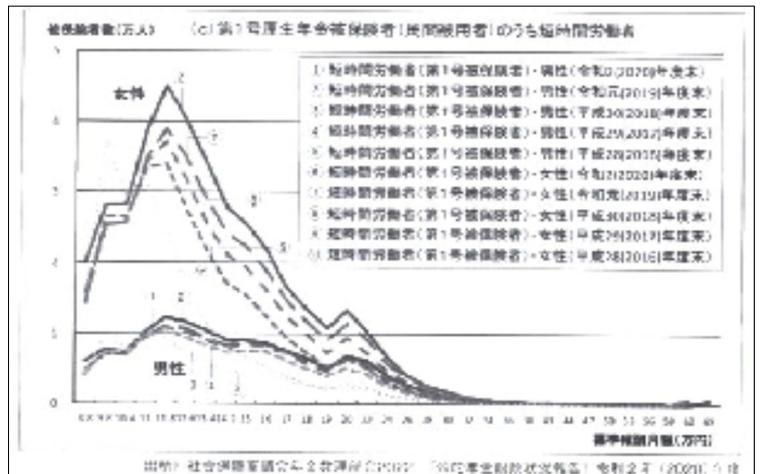
## 新たな年収の壁

支援パッケージは「短時間雇用者の106万円」と「第3号被保険者の130万円」が対象です。いずれも有配偶者女性の年収の制約という面が大きいのですが、特に106万円は2016年に始まったパートタイマー(週20時間以上、月収8.8万円以上)の被用者保険加入義務化がもたらした新たな壁です。従来の壁は有配偶者の女性の働き方を大きく制限し、壁を越えないよう就労制限が行われてきました。106万円の壁も同様の制限を課すものとなるとの懸念があります。

## 106万円は壁となったか

では106万円は実際に新たな壁となったのでしょうか。下図(お茶の水女子大永瀬伸子教授による)を見てください。「第1号被保険者」とは厚生年金被保険者のうち民間事業所に使用される者です。縦軸はその人数、横軸は月収を表します。グラフは被保険者の拡大が始まった2016年から2020年までの推移をです。上の折れ線グラフ集団⑥から⑩が女性、⑩は拡大の始まった2016年、⑥は直近の2020年です。拡大の始まった⑩の細かい破線から⑥の太い実践までピークは高くなり山の位置は右に移動しています。2016年に501人以上の事業所に適用拡

大した5年間106万円を越える人の人数は増え収入は拡大したと言えるでしょう。2022年には101人以上、2024年には51人以上の事業所に適用拡大が行われるのでこの傾向はよりはっきりすると思われる。グラフの対象期間賃金単価の大幅アップは無かったので月収の増加は個々の労働者の働く時間数が増加したと推定できます。壁を越えることでパートタイマーの働き方の変化が起こり始めています。



## 壁は動いている

106万円もその他従来の壁も有配偶者女性の収入制限の問題とされてきました。実際には自ら低賃金を選択する「主婦パートタイマー」は他のそれ以外のパート賃金を引き下げる錘として作用してきました。問題が意識されだした単身女性労働者の低賃金の一因ともなっています。一方事業主にとっては社会保険料事業主負担無しで雇用でき「パートに安く働いてもらう」都合の良い制度です。しかし働く女性の意識や生活は既に変化し制度の枠を越えています。国民年金3号被保険者制度の見直しも検討されています。

「男は外で働き、女は家庭に」というかつての姿は大きく変貌し、制度が息を切らして追いかける現状の一断面となっています。

## 「年収の壁・支援強化パッケージ」で壁を越えよう

106万円の壁を前にしたパートタイマー

統計の推移は、壁を超える選択をする人の増加とその収入の増加を示しています。これから壁を越えようとする人も既に壁を越えた人も互いに満足いく結果を生み出すのも労働組合の責務と力です。「年収の壁・支援強化パッケージ」を活用しパートタイマー、非正規労働者の賃金引き上げを勝ち取りましょう。

### 2024年建設支部お花見

○行先 いこいの村と  
加西フラワーパーク

○日程 2024年  
3月31日(日)

2月中旬から募集開始予定

### 今後の予定

2024年2月以降

- 2/5 (月) 18:30 支部執行委員会
- 2/16 (金) 17:30 メーデー相談会
- 2/20 (火) 15:00 太平ビルサービス分会執行委員会  
18:00 弁護士相談会
- 2/21 (水) 18:30 関西労働者安全センター総会
- 2/26 (月) 春闘要求書・提出
- 3/4 (月) 18:30 支部執行委員会 (予)
- 3/18 (月) 支部春闘回答指定日 (予)
- 3/29 (金) 9:30 地本第2回労災職業病対策委員会

建設支部  
HP



# 辺野古に行ってきました

## 最前線と思いきや

沖縄県による設計変更不承認を、国が代執行で強行突破し間を置かず工事着工した緊迫した辺野古に1月中旬行ってきました。



辺野古ゲート前では連日午前9時、午後0時、午後3時の工事ダンプの搬入時間に座り込み抗議行動が行われています。実際にダンプを止める行動で、過去に逮捕者も出ていることから多少緊張して那覇から現地に入りました。ところが最初に目にしたのはゲート正面で出入りのダンプを監視記録している女性が運転手に手を振っている姿でした。そして結構な数の運転手が手を振り返しています。なにかほっとする風景です。

時間になると少し離れたテントで休憩していた参加者は三々五々ゲート前に移動します。ゲート前には東京の警備会社の警備員(多分沖縄の人たち)が姿勢を正して一列に並んでいました。



この日は那覇で行動があり参加者は多少心細い人数ですがゲート前にプラカードを持ち、椅子を置いて座り込みです。後ろでは警備会社が「座ったらあかんよ」とマイクで言っていますが集会の進行の

妨げにならない音量です。気が付くとゲート前車道には大型ダンプが後ろが見えないくらい並び始めました。



そうこうするうちに出勤服を着た県警機動隊が前面に出てきました。それでも集会は続き「建設支部から来ました」と挨拶すると参加者の多くが支部OBのM氏を知っており歓迎の拍手をいただきました。県警は「退かんと排除するよ」と言うてますが集会を遮ることはしません。集会は結局30分以上続き発言も出尽くした頃「排除するぞ、でも感染症状況を鑑み身体接触したくないから退いてくれ」と通告あり機動隊員が適度の距離から「退いてくれ」と行ってきました。大半の人は自ら立ちましたが(私も)気合の入った人は「わしは退かん」といって抱えられていました。結局30台以上のダンプを止めていました。ゲート前を排除されたので車道を渡ろうとすると機動隊員が「危ないからチョット待って下さい」と声かけあり、車が途切れたら「どうぞ」とやさしく誘導しました。全港湾のピケットではあっという間に排除されて終わりというところですが、法的な保護も期待できず物理的な抵抗も難しい辺野古で阻止行動が出来ている不思議な光景でした。機動隊員も小柄な人が多く威圧的でなく、沖縄県民の過半が辺野古基地建設にNOを示している威力を感じました。